校友だより

世界遺産熊野古道案内

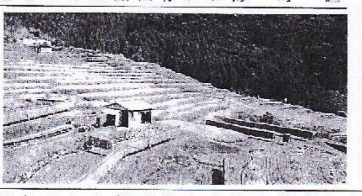
畑中伸稔（三重県支部）

御浜町から新宮までの古道を紹介します。

■風伝峠（御浜町と紀和町の町境）

江戸時代以前から熊野の海辺と山奥の物資や人々が交わる重要な役割を果たしていた。歩き始めは尾呂志バス停近く峠への登り口から。棚田の中を縫うように続く舗装路を登って行くと右手に土地の人によって祭られた一里塚のような祠がある。古道にまつわる史跡ではないが目印になる。やがて民家が途絶え地道になり山の中へと入る。溝を掘ったように造られた杉木立の中を歩く。やがて藪が混じる辺り水子地蔵がある。ここを過ぎると石積みの民家がある。右に折れると石畳が現れる。道の脇には石積みの住居跡。「莾兵屋」という寺子屋があったらしい。間もなく古道を寸断する旧国道を出ると「風傳古道・右 阿田和、尾呂志方面・左 奥熊野街道本宮への道」と書かれた道しるべがある。ここから舗装路を峠まで歩く。山頂にある茶屋の向いの高台が風伝峠である。法界塔が立ち少し離れて地蔵が祭られている。かつては一揆の時戦略上の拠点になり漁師らには航海の目当てになる山だったらしい。さらに古道は続き本宮道と北山道が交差する地点となるが道は荒れて歩くのはきついので、Uターンしたほうがいいと思う。旧国道矢の川大平バス停へ。

風伝とは、風顛の当て字で風のよく通る峠を意味し麓の尾呂志から吹き下ろす風伝颪が転じたものといわれる。また別説には、一千年昔「花の窟」のご神体を熊野本宮大社へ運ぶ途中この峠でひと休みするため（宝殿）を（下ろし）たので「風伝」「尾呂志」になったとか。



風伝峠を降りると本宮への本宮道と吉野方面へ向かう北山道に分かれる。

■北山道にある通り峠

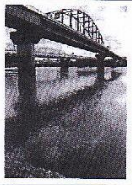
古くから生活道であった。矢の川大平バス停から約15分歩けば通り峠への登り口。道幅狭いなだらかな坂を登っていく。ほどなく敷石道になりさらに進むと勾配がややきつくなりきれいな石畳が現れる。小さなカーブを登りきった所が峠である。Sの字を描きながら峠を下る。登りとは違い道はでこぼこで落石も転がっている。やがて石畳は階段状になり苔むして緑色を帯びている。途中丸山千枚田が垣間見える。10分ほどで県道の上に出る。峠を戻った方が早いが、美しい丸山千枚田が一望できるスポットであるので車に気をつけて県道を歩いて欲しいと思う。

■浜街道（北）熊野市～阿田和12・2キロ約四時間

先に紹介した本宮道（横垣峠、風伝峠）北山道（通り峠）とは別に、国道42号を歩く七里御浜は海岸に下り歩いて欲しい。「二十世紀に残したい日本の白砂百選」に選ばれる美しい浜だ。国道沿いに獅子岩、花の窟（イザナミノミコトの墓所といわれる高さ77メートルの巨岩のご神体）が見える。浜沿いに国道を行くと御浜町志原である。この街道に峠はないが志原川は〝親知らず、子知らず〟といわれ恐れられていた。河口の渡瀬を走り割ったが波に呑まれる者もいたという。高波を鎮める神として「浜の龍神塔」がある。この先の市木川でも同様で苔むした「巡礼供養碑」が立っている。しばらく海岸を歩くと遊歩道があり眺めのよいコースである。やがて歩道橋「黒潮橋」を渡った所が道の駅パーク七里御浜。その裏手が阿田和駅だ。

■浜街道（南）阿田和駅から新宮市まで約14キロ

阿田和から尾呂志川を超える国道42号線への旧街道のルートと山手にある阿田和道のルートがある。国道を歩いていくと六部の墓という墓石がある。東北からの巡礼が埋葬されている。さらに進むと井田川。右に折れると井田観音へのゆるやかな巡礼坂といわれる地道がある。国道42号道の駅ウミガメ公園を超えると徳本上人名号碑がえびす様と並んで立っている。この先古道は成川の渡しに続くルートと鵜殿村の阿須賀の渡しへの道があった。成川へは、紀伊井田駅の手前から山手へ。眺めがよくみかん畑越しに七里御浜が見下ろせる。井田の一里塚を過ぎると、横手延命地蔵がある。少し先には沖見地蔵が海を眺めている。やがて紀宝バイパスを越え、耳切り坂を下って行く。怖い坂の名の由来は夜更けにこの坂を通りかかった侍が、払っても払っても耳に触る物があるので、とうとう自分の耳を切り落としてしまったという言い伝えから。



成川の集落から国道42号に出る。目の前は熊野川だ。対岸には熊野速玉大社の社が見える。熊野大橋を渡って今はあっという間に越えてしまうが、幾多の苦難を乗り越えて熊野川に至った旅人は「成川の渡し」で新宮へ。熊野三山の一つ、熊野速玉大社を目前にした感慨はいかなるものだったであろうか。

「ポトマック河畔の花見」

ワシントンD.C.

高垣むつ子（千葉県支部）

2013年4月の初旬に、アメリカ合衆国の首都ワシントンDCに行って来ました。14年振り2度目の訪問でしたが、何一つ変わらないように見受けられましたが、2001年9月11日のテロ以降ホワイトハウス、ペンタゴン（国防総省）などの内部見学ができなくなっていました。それでも、今回国立公文書館に入り、アメリカ合衆国憲法や独立宣言書などを見る事ができました。ここでは、見学に予約が必要と聞いていたのですが、予約を取らずに並んでいたら、予約確認書を持っている人の列に並んでしまい、また、係員もなぜか咎めだてせず、5分位で入場することができました。見学を終えて外に出たら、反対側の入口は長蛇の列で、ひょいと看板（板のような小さな小さなもの）を見たら、予約していない人はこちらですと、その長蛇の列の方を差していて、初めて違った列に並んでしまった事に気が付きました。もし、これを見ていたら、たぶん並ぶのをあきらめていたかもと思うと、ラッキーだったかも知れないけれど、並んでいる人に申し訳ない気もして、とても複雑でした。

毎年3月下旬から4月中旬まで、チェリーブロッサム・フェスティバル（いわゆる桜まつり）がポトマック河畔で開かれ、日本のお祭りのパフォーマンスや10マイルマラソン、花火大会などのイベントが開催されます。

ワシントンDCも寒い日が続いていて、桜の開花が遅れて、4月7日の日曜日にポトマック河畔にお花見に出かけた時には、まだ三分咲きでしたが、この日は快晴で暖かく、あと一週間もすれば満開だろうと思いました。

14年前ここを訪れた時は、80才になる母と一緒でした。とても気に入ってくれて、本当に親孝行できたと思っています。これが母との最後の海外旅行でした。

この街の緑を通り抜ける風は、あの時と同じ香りがしました。

ヨーロッパを歩く(23) ローマ最後の日

小西長之助

目が覚める。ホテルのベッドの上だ。上着を脱いだだけの昼間の服装のままだ。どうしてこんな格好で寝ていたのだろうか。

左の手首には、腕時計がはまったままになっており、4時過ぎを指している。窓の外は真っ暗だ。多分夜明け前だろう。隣りのベッドのM氏はよく眠っている。

フロアには、蓋が開いたままのスーツケースがある。衣類やフィルム、ガイドブック、土産物などが、足の踏み場もないくらいに散らばっている。

酒臭い匂いが鼻をつく。机の上には紙パックに入った日本酒や、チーズやクラッカーの食べ残しがころがっている。やっと事情がわかってきた。

昨日はローマ滞在最後の日だった。だから、最後の晩餐は豪華なものにしたいと思っていた。こちらで懇意になった皮革製品の店「キク子の店」の女主人キク子さんに、夕食のおすすめの店を尋ねてみた。「レストランが開店する19時半ごろ来てみてください。いい店へご案内しますよ」

彼女は、もともと日本人。こちらへ留学していたときイタリア人の今の旦那さんと知りあい、10数年前に結婚しこの店を開いているという。

この店のことを知ったのは、ローマへ来る少し前に、「ローマでは、この店へ行くといろんなことを教えてくれますよ」

JRの車内で乗りあわせた若者が、店の名前は忘れたが場所はこのあたりだと言って、地図を描いて教えてくれたのだ。

ローマに着いて早速、トレヴィの泉のすぐそばにあるこの店を訪ねた。「日本の方が来られると、懐かしいわ」彼女は嬉しそうに迎えてくれた。ローマ滞在中は何度か訪ねて、観光や買い物などの情報やノウハウを教えてもらい助かったのである。

キク子さんがレストランへ案内してくれることになったが、それでまだ3時間ほどある。もう一度スペイン広場のほうへ行きたかったが、息子たちへの鞄の土産とか、私のショルダータイプの手提げ鞄、買った鞄類を入れる旅行鞄などをまとめ買いしたため、タクシーで一旦ホテルへ置きに帰った。

▶ローマの街並

部屋に入ると、翌朝早くパリへ発つため今夜中に荷造りしなければならないことを思い出した。食事に出かけるまでに少しでもやっておこうと思い、荷物の整理を始めた。ほどなくすごく空腹を覚えてきた。ローマ最後の日だから、朝早くから時間を惜しんで歩きまわり、昼はスパゲティのような軽食で済ませていたためだろう。

あと2時間ほどで本格的なイタリア料理が食べられるのだが、それまで我慢できない。成田空港の免税品店で買ってきた日本酒の残りと、飛行機内で出た軽食の一部のチーズやクラッカーなどの食べ残したもので、腹の虫を押さえることにした。

日本酒は免税のためかなり安く、日頃あまり口にしない特級酒をM氏と1升ずつ買った。口当たりがすごくよかったので、かなり飲んだようだ。4日間歩きまわって疲れていたうえ、空きっ腹だったので深く酔い、いつの間にか今まで眠ってしまったのだ。

すごく期待していた豪華な最後の晩餐が、とんだことになってしまったのだ。

それにしても、レストランの案内を楽しみにしていたようだったキク子さんが、いつまで経っても現れない私たちを、どんな思いで待っていてくれていたのだろうか。

空港に向かうためのロビーでの集合時刻まで、あと2時間足らずしかない。急いでM氏を揺り起こし、荷造りにとりかかる。（つづく）

ぼくらの夏休み

清水勇男（ペンネーム赤岳）

一 カッコーノー郭公鳥
夜明けを知らず早起きだ
表は薄すら明けて来た
時計は四時を回っている

二 ホーホケキョーと老鶯が
寝惚け眼で応対した
夏の朝です夏休み
学童元気だ体操する

三 ぼくら毎年帰省する
お庭耕やす山暮らし
ナスやトマト・ピーマンまで
作って食べますお百姓

四 故郷恋しや山や川
東に聳ゆる八ケ岳
南に流るる釜無川
ぼくら学童今に見よ

支部通信 発行紹介

日大島根桜信会便り
〒690-0871
松江市東奥谷町256—3
坂本育穂

秋田県支部校友会報
〒019-1108
横手市山内土渕字道地59—27
阿野広美

校友会報
〒019-1108
鳴門市鳴門町高島字中島220
土井栄次

房総 千葉県支部会報
〒284-0003
四街道市鹿渡894—5
目黒重忠

茨城桜友
〒312-0032
ひたちなか市津田2957番地
磯崎強

静岡県支部会報
〒411-0044
三島市徳倉2—29—9
田中由雄様方 渡辺孝哉

大江戸通信
〒101-0065
千代田区西神田2—7—10
日本大学通信教育部
校友会事務局内 金子栄輔

ふるさと

本田まもる

串団子ひとつ呉れよと断りて
息子と一緒に 食っているなり
さくらの紅菜の花の黄なずなの白
コントラストの冴ゆるふるさと
手を挙げて畑の知人に挨拶す
里はまほろば歩けよ歩け
おへんろも団体客なら重そうにゴンドラ
揺れるロープウエイは
さようならの握手をしようさよならと
暗くなりゆく街に見送る
ミニトマト、ゴーヤは夏に欠かせない
胡瓜に添えて各二本植える
酪農家の妻なる妹「春キャベツ」実家の
縁先に置き呉れてあり
（昭和43年法卒 相談役 徳島県支部）

町まちの文字(24)

福島県喜多方のまちにある銘酒醸造場の看板。看板の字は、北國で静かに酒造りしている雰囲気がよく出ており、蔵のまち喜多方へもう一度行ってみたい誘惑にかられる。

相談役 小西長之助